

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）
（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない四国地域の中核拠点病院の機能評価と介護療養体制整備
課題番号：24HB1003

【分担研究3】地域で実践的なポケット版小冊子の作製

研究分担者：末盛 浩一郎（愛媛大学医学部 准教授）

研究要旨：

四国地域にはブロック拠点病院が存在しないものの、HIV 患者数は増加傾向にあり、全国で最も高齢化が進んでいる地域の一つであることから、HIV 患者の高齢化も顕著に進行している。今後、HIV 患者に対する介護および療養体制の整備は喫緊の課題であるが、現状では中核拠点病院への患者の集中が見られ、各県内のエイズ拠点病院における機能および介護・療養体制は必ずしも十分とは言えない。本研究により、比較的医療資源の乏しい、いわゆる「地方」においても、HIV 診療体制および介護・療養体制の充実と地域間における均てん化が促進されることが期待される。

療養病院および福祉施設においては、HIV 患者への対応経験が十分とはいえず、HIV に関する簡便なマニュアルを常備することが啓発の促進および患者受け入れ体制の構築に寄与すると考えられる。そこで本研究では、令和 6 年度の成果として、地域における HIV 診療に関する実践的な内容を盛り込んだポケット版小冊子を作成し、四国地域の主な HIV 診療施設ならびに介護・福祉施設へ配布を行った。配布後の評価としては、「携帯に適しており、内容が平易で実用的である」との肯定的な意見が多数寄せられ、概ね好評を得た。さらに、利用者および分担研究者からの意見を踏まえ、大幅な内容の改訂も実施した。

研究分担者

高田清式・愛媛大学医学部附属病院・特命教授

山之内純・愛媛大学医学部附属病院・准教授

木原久文・愛媛大学医学部・助教

乗松真大・愛媛大学医学部附属病院・副薬剤部長

若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師

池田聖・愛媛大学医学部附属病院・社会福祉士

A. 研究目的

四国地域にはブロック拠点病院が存在しないものの、HIV・エイズ患者は多く、当院においてもこれまでに累計 220 名以上の患者を治療している。近年、四国地域における HIV・エイズ患者数は増加の一途をたどっている。中核拠点病院に患者が集中する中、他の拠点病院においても診療・連携が求められるが、診療未経験および対応が困難な状況が四国では特に著しい。四国地域における高齢化率は 33%を超えており、都市部と比較して中高年層の患者が多い傾向にある。また、エイズ罹患率も

40%を超えており、中年層においても Activities of Daily Living (ADL) の低下が認められ、日常生活に支障を来し、自宅での療養が困難となるため、長期的な施設療養を要する症例も散見される。

当院でも、長期療養が必要な患者に対して他施設への紹介・受け入れを個別に調整しているが、受け入れ先の確保には難渋することが多い。

特に療養病院および福祉施設においては、HIV 患者への対応経験が十分とはいえず、今後 HIV 患者の高齢化が確実に進行することを踏まえると、これらの施設における人材育成は喫緊の課題である。

このような背景のもと、HIV に関する簡便なマニュアルを療養病院および福祉施設に常備することが、職員の知識の確認や啓発につながると考え、ポケット版介護マニュアルの作成を企画した。

B. 研究方法

本研究では、前研究において作成されたポケット版介護マニュアルの作成を継続し、内容の実用性と現場での有効性をさらに検証することを目的とした。まず、愛媛県内における各種出張講義および在宅看護の現地研修における参加者、ならびに四国地方の主要な HIV 診療施設に対して当該マニュアルを配布し、受け取った参加者からの感想や意見を収集した。

次に、これらのフィードバックをもとに、分担研究者との協議を通じて内容の改訂を行った。

(倫理的配慮)

本研究は、患者および関係者の人権を尊

重し、倫理的配慮のもとに実施した。調査への協力は任意とし、協力を拒否した場合においても、対象者にいかなる不利益も生じないよう十分に配慮した。

C. 研究結果

これまで先行研究で作成してきたポケット版介護マニュアル(図1)については、配布を継続しながら、配布先での利用者および分担研究者から寄せられた意見を参考に、内容の改訂を行った。改訂されたマニュアルには、HIV の基礎知識、感染予防対策、療養環境の整備、HIV 感染者への対応(特に U=U に関する情報提供)、および相談時の窓口に関する情報が盛り込まれている。

内容は、専門的知識のない介護・福祉関係者にも理解しやすいよう、平易かつ実用的な表現に配慮して構成されている。また、冊子は縦 18cm×横 10cm の三つ折りポケットサイズとし、現場での携帯性や利便性を考慮した仕様とした(図2)。





図 1. HIV 感染症の介護マニュアル（改定前）

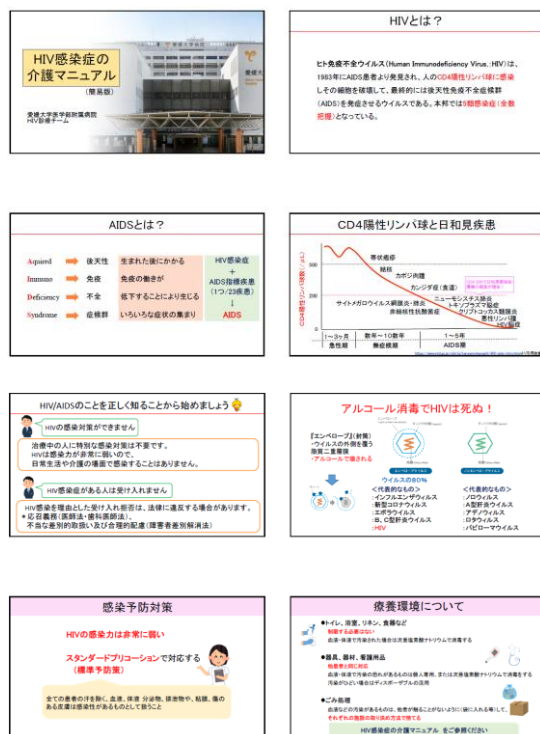


図 2. HIV 感染症の介護マニュアル（改定版）

本資料では、空白を多く設けることで全体の視認性を高め、読みやすさに配慮した。また、使用する言葉をできるだけ平易にし、文字数を抑えることで、内容を分かりやすく伝えられるよう工夫した。さらに、質問形式を取り入れることで、読者の関心を引きつけ、自発的な理解や行動を促した。最後に、窓口の情報を明確に記載することで、必要なときにすぐ支援につながる体制があることを強調し、利用者が安心できるように配慮した。

D. 考察

本ポケット冊子については、前研究において事前評価委員から一定の評価を受けており、現場での意見を反映しつつ、さらなる改良を加えた冊子の作成が計画されていた。そのため、本研究においても継続的に取り組み、内容の改訂に至った。

今回の改訂版は、愛媛県内の介護および福祉施設のみならず、四国地方の主な HIV 診療施設にも配布を行う予定である。これにより、HIV 診療および対応の経験が乏しい地域においても、拠点病院と介護・福祉施設との連携がより円滑に行える一助となることが期待される。

今後は、改訂版を再度配布したうえで、継続的に利用者や分担研究者などからの意見や感想を収集し、内容のさらなる改善を図る予定である。将来的には、本マニュアルをより汎用性の高いものへと発展させ、全国規模での活用を展開することで、HIV感染者への支援体制の強化および介護・福祉現場における対応力の向上に貢献することを目指している。

E. 結論

ブロック拠点病院が設置されていない地域における HIV 診療体制の整備の一環として、本研究では、介護および福祉施設における対応力の向上を目的に、HIV 感染症に関する介護用マニュアルの作成および改訂を行った。

本マニュアルは、実用性と平易さを兼ね備えた内容であり、地域における HIV 感染者の受け入れ体制の強化に寄与するものと考えられる。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Kihara H, Yamamoto H, Shikata H, Kaneko M: A Case of Sepsis in Which *Escherichia coli* and *Fastidiosipila sanguinis* Were Isolated and Identified From a Blood Culture. *Cureus*. 16(8):e66159,2024.

2) Fujishita S, Inoue A, Watanabe H, Nishikawa M, Taniwaki M, Matsumoto

S, Ochi M, Suemori K, Watanabe A, Kitazawa R, Shigekawa S, Ohyagi Y, Kunieda T: A case of immunocompetent intracranial cryptococcoma in which intraoperative rapid pathological diagnosis and polymerase chain reaction led to early treatment: What to know to avoid misdiagnosis as brain tumor. *Surg Neurol Int.* 3;15:330,2024.

3) Sasaki Y, Yamanouchi J, Takenaka K: A Novel Splice Donor Site Mutation Leading to Inherited Type I Protein S Deficiency. *Ann Vasc Dis.* 25;17(2):179-182,2024.

2. 学会発表

1) 中尾綾、小西達矢、河邊憲太郎、加藤潤一、越智俊元、末盛浩一郎、山之内純、竹中克斗. HIV 関連神経認知障害 (HAND) における Iowa gambling task の有用性の検討. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

2) 堀江健太、末盛浩一郎、桑原希、中川進平、乗松真大、中尾綾、宮崎雅美、若松綾、高田清式、竹中克斗. 複数の日和見感染症を合併し難治性病態を呈した AIDS 症例に対し、内科・外科治療を行い救命できた一例. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

H. 知的財産権の登録状況 (予定を含む)

該当なし